

科学技術の国際問題分科会

準備会セミナー

日 時：昭和61年7月14日(月) 18:00～20:00

場 所：霞山会館

参加者：28名

テーマ／講師：インドの科学政策と経済発展／アブドゥール・ラーマン

分科会設置に先立ち、準備会セミナーをインドの著名な科学者、アブドゥール・ラーマン氏を迎え、昨年7月14日に行った。氏は、インドの国立科学技術開発研究所の所長を勤められた、インド科学技術政策を推し進めている第一線の科学者である。講演内容は、インドの科学技術政策のフォーミュレーションの過程と政治との関連、そしてわが国の科学技術政策との比較に亘った。セミナーは和やかな雰囲気のもとに進められ、大変実りの多いセミナーと出席会員の評判もすこぶるよかったようである。

さて、今年度は本格的に、3つのテーマと内容に絞り活動が続けようと計画している。まず、第一の活動は国別のケース・スタディを行うことである。わが国の企業や学会はとかく欧米偏重のきらいがあるところから、我々のケース・スタディでは、ユーゴや韓国といった中進国に的を絞るつもりである。第二の活動は、ラーマン博士のような海外からの要人を招きセミナーを行うことである。第三の活動は、海外で活躍され最近帰国された方から海外事情、とりわけ科学技術事情を聞くセミナーである。このような三つの活動はそれぞれ有機的に関連しており、最終的には、国際社会でのわが国の科学技術の位置を定めるところにその目的がある。会はインフォーマル且つ国際的に行うのが相応しいため、言語は主として英語を使用したい。会員諸氏の絶大な支援と御参加をお願いしたい。

(薬師寺泰蔵 埼玉大学)

技術革新研究分科会

第1回分科会

日 時：昭和62年1月27日(火) 18:00～20:30

場 所：学士会館本館

出席者：21名

馬場主査の挨拶に続いて各会員が自己紹介を行い、予定した議題に沿って討議した。

(1) 「技術革新過程モデル」の紹介とディスカッション

埼玉大学の児玉教授より、わが国における技術革新過程のケース・スタディが、昨年10月京都で開かれた日米会議の報告資料に基づいて紹介された。最近の成功事例を分析してみると、いわゆる「研究→開発→生産→販売」というリニヤー・モデルでは説明しにくいものが多い。むしろイノベーション・サイクルやイノベーション・スパイラル、あるいはイノベーション・ネットワークというモデルを設定した方が理解しやすい。具体的な事例として、①レーザー・ダイオードの新事業化、②オフィス・コンピューターの製品概念の形成、③アミノ酸工業における日本の技術開発、④制度変更による電気通信サービス（ファクシミリ通信、自動車電話）の発展、⑤パーソナル・コンピューターの市場開発と技術開発、および、⑥光ファイバーにおける技術開発の動学的変遷、の6つ

のケースについて紹介があった。

これに関連して三菱電機小池会員から Stephen J. Kline の論文 "Innovation Is Not a Linear Process" (Research Management, 28 (4), 36-45 (1985)) の紹介があり、これらについて活発なディスカッションが行われた。

(2) 「分科会の進め方」アンケートの調査結果報告

25名の分科会会員からアンケートの回答があり、これらのキーワードを抽出し KJ 法で質問項目毎に分類・整理した結果が幹事から報告された。

(3) 今後の分科会の進め方

アンケートの結果を踏まえて討議し、次の様な基本方針を決めた。

- ①当面研究会方式で進める
- ②毎回ケース・スタディやモデル・スタディを2件程持ち寄り発表・討議する
- ③分科会の開催頻度は2ヵ月に1回とする。

なお、次回開催予定は以下の通りである。

日 時：昭和62年3月16日(月) 18:00～20:00

発表者：柚木 久(長岡技術科学大学) 亀岡秋男(東芝)
(亀岡秋男 東芝)